

算数科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時

〇〇〇小学校

1年〇組 (〇名)

授業者 〇〇 〇〇

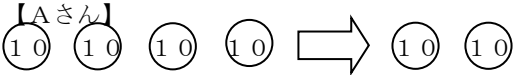

<単元・題材名> おおきいかず		<学習指導要領上の位置づけ> A数と計算 (1) (2) 算数的活動 (1) ア、イ	
<育成を目指す資質・能力> ○10ずつまとめて考えることよさに気づき、ものの個数を数えたり表したりしようとする態度 ○既習事項を用いて、数の数え方や読み方、書き方などを考え、表現する力 ○数の見方や既習の計算を活用し、加減計算の仕方を考え説明する力 ○数を数えたり、読んだり、書いたりする力 ○加減計算する力			
<単元の目標> 2位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、2位数の加減計算の仕方を考えることができる。			
評価 規 準	関心・意欲・態度	10ずつまとめて数えることよさや十進位取り記数法よさに気づき、ものの個数を数えたり表したりしようとしている。	
	数学的な考え方	10を単位とする数の見方をもとに、2位数の数え方や読み方、書き方などを考え表現したり、簡単な場合の2位数の計算の仕方を考え表現したりしている。	
	技能	2位数や簡単な3位数の個数を数えたり、数を読んだり書いたり、簡単な2位数の加減計算をしたりすることができる。	
	知識・理解	2位数や簡単な3位数について、数の読み方や書き方、数の構成や大小などを理解している。	
児童 の 実 態	(省略)		
指 導 方 針	○「であう過程」では、数え棒を取るゲームで、獲得した数の棒を数える活動を行うことで、大きな数を数えることへの関心を高めたり、学習することの必要性を感じたりすることができるようにする。 ○「追究する過程」では、位取りの原理を理解させるために、ブロックや位取り表を関連させながら指導する。また、正確に数を数えることができるように、大きな数を数える時は、印をつけたり、10のまとまりごとに囲んだりしながら数えることを促していく。そして、数の構成や順番の理解を深めるために、数の大きさは「10のまとまりがいくつと端数がいくつ」と説明を行わせたり、数の順番を唱えさせたりする活動を繰り返し行う。さらに、一つの考えを複数の児童でリレー形式で説明したり、ペアで確かめ合ったりさせ、全員の学びを促していく。 ○「つかう過程」では、大きな数の数え方や表し方を活用できるように、身の周りの物の数を数え、数え方を共有する活動を行う。		

単元計画

過程 時 間	ねらい	評価			
		関	考	技	知
であう	1	2位数の数え方、唱え方、位取りや記数法について理解するとともに、単元の学習への関心をもつことができる。			
	2	単元の課題：40よりも大きい数の表し方を考えよう。			
追 究 す る	3	2位数について、「10のまとまりとばらがいくつ」を使って数えることができる。			
	4				
	5	2位数の構成を理解し、表現することができる。			
	6	10が10こ集まると100になることを理解する。			
	7	数の表を用いて、数の規則性や構成を理解し表現することができる。			
	8				
	9	120までの数の唱え方や系列を理解する。			
	10	何十+何十の計算の仕方について考え、説明することができる。			
	11	何十一何十などの計算の仕方について考えることを通して、その計算をすることができる。(本時)			
	12	繰り上がりや繰り下がりのない2位数と1位数の加減計算の仕方を理解し、その計算をすることができる。			
つ か う	14				
	15	身の回りの物を数える活動などを通して、学習内容を活用することができる。			
	16				

本時の展開（11 / 16時間）

ねらい：何十一何十などの計算の仕方について考えることを通して、その計算をすることができる。

準備	色紙、発表用紙、問題用紙、前時の学習内容をまとめた掲示物	
時間	学習活動 (発問と予想される児童の反応)	○指導上の留意点及び支援 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
5分	<p>1. めあてを設定する</p> <p>【問題】いろがみが60まいあります。20まいつかいました。のこりはなんまいになりますか。</p> <p>T: どんな式になるかな。 S: $60 - 20$。 T: どうしてかな？ S: 「使う」だからひき算だよ。 T: 答えも分かるかな？ S: $60 - 20 = 40$だよ。 T: 本当に40なのかな？説明できる？</p> <p>【めあて】$60 - 20$のけいさんのしかたをせつめいしよう。</p> <p>T: どんな考え方が使えるかな。 S: 昨日のたし算のやり方が使えるよ。</p>	<p>○ばらばらにした色紙を示すことで、工夫して計算をする必要感や問いをもつことができるようにする。</p> <p>○立式の根拠を問いかけ、問題場面に着目して立式をすることができるようにする。また、20枚使ったから、少なくなっていることも付け加え、減っているイメージをもたせる。</p> <p>○問題文の紙をノートに貼らせることで、問題文の数字や言葉に着目することができるようにする。</p> <p>○児童とのやりとりの中でめあてを設定することで、学習への意欲を高めることができるようにする。</p>
5分	<p>2. 個別に追究する</p> <p>【Aさん】 </p> <p>【Bさん】 </p> <p>○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○</p> <p>【Cさん】 60は10の束6個分。20は10の束2個分。20枚使うから、10の束を2個とると、残りは4個。10の束4個だから、こたえは40枚。</p> <p>【Dさん】 60は10の束6個分。 $6 - 2 = 4$ $60 - 20 = 40$</p>	<p>○教室に前時の学習のまとめを掲示しておくことで、10の束の考え方を想起することができるようにする。</p> <p>○早く終わった児童に、発表用紙に考えの一部を書かせておく。また、発表の練習を行わせることで、自信をもつことができるようにする。</p> <p>○児童の考えの一部を黒板に掲示することで、解き方を選んで、自力解決をすることができるようにする。</p> <p>○1つできたら、他の考え方にも挑戦するように促すことで、様々な考えをもつことができるようにする。</p> <p>◎自分の考えをもつことができない児童に対しては、ブロックを使って考えるよう促す。</p>
15分	<p>3. 全体で共有する</p> <p>T: Cさんの考えを説明してください。。 S: 60は10の束6個分です。 S: 20は10の束2個分なので… S: 束が4個分残りました。 S: 10の束が4個で40です。 T: 式にできますか。 S: $6 - 2 = 4$になりました。 T: では、答えは4ですね。 S: 4は10の束4つ分なので40です。 T: では、図を使って説明しましょう。 S: $6 - 2$は、図のここのことで、⑩が6こあったのを2こ動かしたということです。 S: そうすると、ここに⑩が4こあるから、答えは40です。</p>	<p>○計算の仕方を、児童とやりとりをしたり、黒板に書き入れさせたりしながら全体で考えていく。</p> <p>○自分が考えていない計算方法についても説明を行わせることで、様々な考え方に触れることができるようにする。</p> <p>○友達の説明を繰り返させたり、付け足しをさせたりしながら計算の仕方を確認していくことで、児童全員が理解することができるようにする。</p> <p>○全体に対して発問や切り返しを行うことで、発表を考えながら聞くことができるようにする。</p> <p>◎児童に発表させるだけでなく、挙手や相づちをさせることで、児童全員が参加できる雰囲気を作るようにする。</p>

10分	<p>4. 考えを深める T: 考え方で似ているところがありますか。 S: 10の束で考えるところ。 T: どうして10の束にしたのだろう。 S: 束で考えると計算しやすいから。 S: 6-2をすれば答えが出るから。 T: ペアで60-20の計算の仕方を説明し合いましょう。 T: では、何十の引き算はどのようにすれば良いかな？ S: 10の束で考えると良さそうだな。 T: たし算だと、どんな考え方だったかな？ S: 10のまとまりをつかった。 S: ひき算もたし算とやり方は同じで、10のまとまりをつくれればいいんだ。</p>	<p>○児童とのやりとりの中で、計算方法の共通点を探すことで、10のまとまりに着目することができるようにする。 ○ペアで60-20の計算の仕方について説明し合うことで、10のまとまりで計算することのよさに気付くことができるようにする。 ◎自分の考えをもつことができなかった児童に対して、友達が発表した考えの中から良いと思ったものを選ぶように話す。 ○前時のたし算の計算の仕方について振り返ることで、何十の計算はたし算でもひき算でも10のまとまりを作ればよいことに気付くことができるようにする。</p>
10分	<p>5. 学習をまとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【まとめ】なんじゅうのけいさんは、10のまとまりでかんがえる。</p> </div> <p>6. 適用問題に取り組む ・30-10 ・100-20 【練習問題に取り組む】 ・90-50 ・60-30 ・100-60 ・50+30</p>	<p>○何十の計算の仕方について、児童の発言を使いまとめを行う。</p> <p>○ペアになって計算の仕方を説明し合うことで、本時の学習内容を確認することができるようにする。 ◎100-20の問題に自力で取り組めない児童に対しては、ブロックを使って考えるよう促すことで、10のまとまりを意識して計算できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◇評価 何十一何十等の計算の仕方について考え、その計算をすることができる。 〈発言・ノート〉 【技能】</p> </div>
	<p>7. 振り返る T: 今日の授業で気付いたことや、大事なことは何ですか。 S: 10のまとまりを作って計算するところ。 S: 昨日の足し算と同じだった。</p>	<p>○本時で一番大切だと思ったことを考えさせることで、ねらいに即した振り返りを行うことができるようにする。</p>